

平成 17 年 6 月 22 日

PI 外環沿線会議 委員 樋上 寛

外環道環境調査大気汚染（NO₂）及び地下水についての意見

● 大気汚染（NO₂）について

三鷹市の西部地域大沢（外環沿線より約 3.5 km 西方）では、平成 14 年から 6 月と 12 月の年 2 回、地域環境グループは地域内 25 地点で大気中の NO₂ 濃度の実測調査を実施しています。その結果は、学校周辺、天文台や野川周辺など樹木の多いところは、交通量の多い地域と比べて低く、特に、夏季は冬季に比べて NO₂ が低くなす。一方、交通量の多く緑地帯の少ない人見街道、人見街道と東八道路交差点付近、調布保谷線御塔坂付近は夏季・冬季ともに NO₂ は規制値の 0.060ppm を前後する環境値を示しています。大気の清浄には、樹木など緑比率の影響が大きいことが分かります。

外環が整備された場合、外環道沿線、インターチェンジ周辺のほか、人見街道、天文台通り、調布保谷線と東八道路の交通量が増える三鷹市内の大気が広域にわたる大気汚染が懸念されます。したがって、以下の施策が必要と思います。

大気汚染の状態を調べるには、外環沿線沿いの線で見のではなく広く面、すなわち沿線と直行する方向の NO₂ 値、SPM 値を測定。

自動車交通による大気汚染を街路樹や公園づくりなどの緑比率を高め大気の改善。

松原橋大気浄化実験結果に示すとおり、排気の清浄化が技術的に期待できるのであれば、排気放出前にクリーニングシステムの導入。（中央 JCT 排気塔から 100m 吹き上げられる排気が三鷹周辺地域広範囲に撒き散らし汚染物質濃度を下げるということは、外環沿線から離れる三鷹市民にとって迷惑な話です。）

● 深層地下水について

三鷹市では、三鷹市の東部と西部、武蔵野礫層と不整合の上総層の砂層・砂礫層中に包蔵されている深層地下水を汲み上げ、東京都の河川系上水と約 40% 混ぜて市内各家庭に給水されています。汲み上げられる深層水の約 60% が東部地域、すなわち三鷹市内を通る外環道にあって外環道は深層地下水包蔵区域中を通過する計画路線になっています。

この計画路線周辺の西側と東側の井戸の数の比は 2 : 1 となっており、仮に p 1 5 のとおり深層地下水が南東から北西に移動しているとすれば、シールドによるトンネル、IC や JCT への掘割による地下水への影響は無視できないもの

です。

以下の調査検討が必要です。

東部（東配水場）地域深層地下包蔵水への影響調査のため、外環道と直行する方向に追加ボーリング実施。（地質、水位、深層水の流れ方向など）

第3回東京外かく環状道路の計画に関する技術専門委員会資料1（p23）に紹介された京都地下鉄烏丸線と名古屋高速の事例に示された、地下水への影響と対策など資料の提供。

以上